

<u>CLASSE:</u>	文学講読 プルーストを読む LePS-61
<u>Jour:</u>	土曜日
<u>Horaire:</u>	13:30-15:20
<u>Niveau:</u>	B1
<u>M./Mme:</u>	M. Satoshi FUKUYAMA
<u>Objectifs:</u>	フランス20世紀文学の最高峰に位置するプルーストの作品を、じっくり読み解いていきたいと思えます。 作品の全体に配慮しながら、全部を読み上げることを目標にしています。
<u>Descriptif:</u>	<p>第2巻『花咲く乙女たちのかげに』の第1部「スワン夫人をめぐる」を継続して読みます。</p> <p>とうとう語り手の「わたし」はスワン家に入りこむようになり交流が始まります。そうしたスワン家との交流のなかで目にしたサロンについて、ほとんど社会学的、心理学的、歴史学的といってもよいような多角的な分析が繰り広げられます。物語としては大きな展開は見られませんが、世紀末から20世紀初頭のサロンの様子を体感するには格好のテキストとなるでしょう。</p> <p>授業は日本語でおこないます。事前にお当てしておいた生徒さんに訳していただきながら、みなさんとともにあれこれと考えていくスタイルをとっています。プルーストの思想と文章を形作ったさまざまな歴史的な背景、文化要素を抽出していくことにも意を用いています。</p> <p>こころざし高く『失われた時を求めて』にチャレンジしても、第1巻で挫折したというのは、もはやプルーストあるあるといってもよいでしょう。第2巻『花咲く乙女たちのかげに』の興味深い箇所にはさしかかります。新規に参加するにはちょうどよいかもしれません。この未知のゾーンをいっしょに体験してみませんか？これを機にぜひご参加を、お待ちしております。</p>
<u>Matériel:</u>	Marcel Proust : <i>A la Recherche du temps perdu</i>, Gallimard, Pléiade (プリント配布)
<u>Remarques:</u>	